

僕らのつくばスタイル 2008年度都市計画実習 まちあるき班

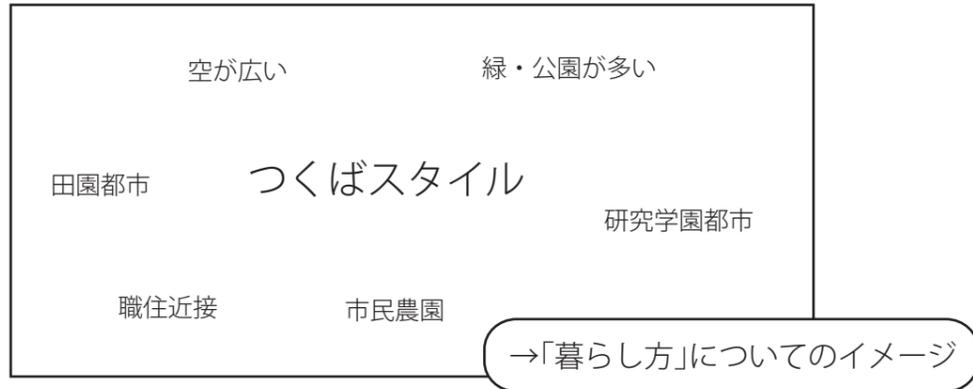
担当教員：藤川昌樹／TA：村田瑞穂／班員：安孫子誠，風間善光，木田啓子，慶田恭一，齊藤岳，西山絢子，矢吹剣一

現在よくきく「つくばスタイル」という言葉。
まちあるき班はこの「つくばスタイル」とは何かを考えます。

■はじめに：「つくばスタイル」という言葉

2005年のつくばエクスプレス開通から3年、つくばには東京方面からの訪問者、移住者が増加した。沿線の駅前地区には多くの住宅が供給され、商業地としての開発も進められている。このような状況の中で、最近よく聞かれるようになったのが「つくばスタイル」という言葉である。

「つくばスタイル」のイメージ(班内での話し合いより)



「つくばスタイル」の歴史と各企画の運営主体

樫出版社	2004年	1月	つくばスタイルNo. 1刊行
都市機構 茨城県	2005年	8月	つくばスタイルNo. 2刊行
		10月	つくばスタイルフェスタ2005開催
都市機構 茨城県	2006年	4月	つくばスタイルNo. 3刊行
つくば市 守谷市	2007年	3月	つくばスタイルNo. 4刊行
		5月	つくばスタイル協議会設立
つくばみらい市	2007年	8月	つくばスタイルNo. 5刊行
		9月	テレビ東京『つくばスタイル』放送
つくばスタイル 協議会	2007年	11月	つくばスタイルフォーラム2007開催
		2008年	3月

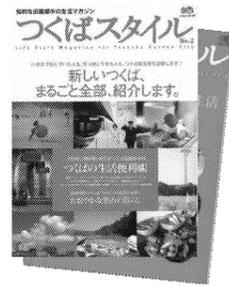
このように、「つくばスタイル」という言葉の定義や使われ方は雑多であり、どのようなものと捉えるかは各自の自由になっている。また、共通の具体的な定義が存在しないため、どのような意味にも捉えられる状態であるといえる。

■目的

現在はあいまいな「つくばスタイル」とは何かを明らかにする。

■つくばスタイルの広報メディア

つくばスタイルという言葉が現在出てくるメディアは、主に以下のような雑誌、ウェブサイトがある。これらの運営主体は個人・団体と様々で、「つくばスタイル」について各自で解釈を行い、それを実践していると考えられる。



雑誌「つくばスタイル」
発行：樫出版社



ウェブサイト「つくばスタイル」
運営：つくばスタイル協議会



一般の個人・団体のウェブサイト
例：
・つくばのサッカーチーム
・つくばでの農業体験プロジェクト

■つくばスタイルフェスタ

2005年10月、研究学園駅付近で行われたイベント。「自然とのふれあいゾーン」、「食と文化・エンターテインメント体験ゾーン」等にわかれたエリアで「つくばスタイル」を体験できた。コンセプト住宅の紹介もあった。

■調査1：雑誌『つくばスタイル』の分析

この調査を行った理由

雑誌『つくばスタイル』は、「つくばスタイル」というフレーズの露出が多く、読者も「つくばスタイル」に対して興味があると考えられる。

調査の方法

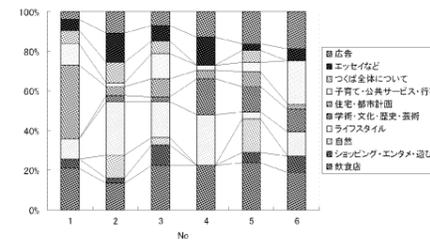
- 雑誌「つくばスタイル」を読み、誌面の内容別にページ数の割合を集計した。
- 誌面に取り上げられているスポットの位置を、つくば市の地図上にプロットした。

雑誌『つくばスタイル』の概要

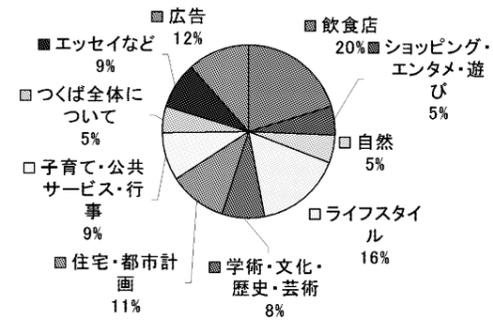
発行所：樫出版社
初号発行：2004年11月（現在6号）
形態：ムック
価格：1冊980円。
販売場所：つくばと東京の書店、コンビニ。

「つくばスタイル」という生活にこだわった地域情報誌。
毎号につくばでの生活を取り上げているほか、第3号以降は実際につくばに住んでいる人向けに飲食店、公園、地域施設等の紹介も増増加している。

掲載記事のジャンルの遷移



掲載記事のジャンルの割合

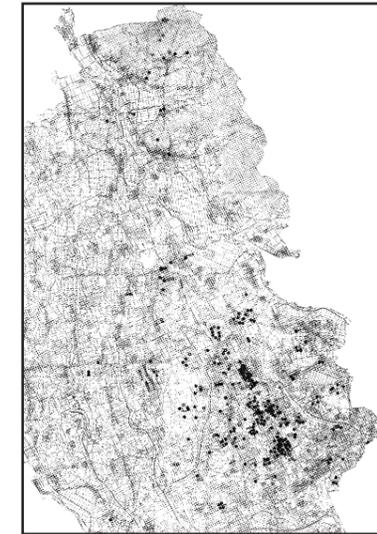


飲食店の多さが目立つ。特に雑誌『つくばスタイル』ならではのものとして、古民家を改造した戸建のアフェ等もよく紹介されている。同様に、ライフスタイルの紹介においても里山などの農村での暮らし方が強調されているものが多かった。

現在までの特集の内容

- No. 1 里山の家での暮らし飲食店紹介
- No. 2 (No. 1と同じ)
- No. 3 つくば便利帳 (スポット紹介)
- No. 4 つくば⇄東京の通勤スタイル
- No. 5 農業と生活
- No. 6 子育て支援

紹介されている場所



取り上げられている地域にはある程度の偏りが見られる。

つくば市の中心部
天久保・吾妻・竹園
二の宮・松代

北部
筑波山・北条

これらの地域に対し、つくば市の西部は取り上げられている場所がほとんど見られない。

■調査2：UR都市機構へのヒアリング

この調査を行った理由

都市機構は、現在T X沿線の宅地開発などを行っており、つくばスタイルという言葉提案した法人である。URに伺うことで提案の経緯や将来の展望について、詳しく知ることができると考えた。

調査の内容

調査日時：2008年5月13日 協力：UR都市機構 大畑洋さん

裏に続きます

都市機構へのヒアリング：主な質問と回答の内容

Q. 「つくばスタイル」という言葉ができたきっかけは？

A. つくばスタイルフェスタ2005というイベントです。TX沿線の都市開発の際に、つくばというブランドをアピールするためのフレーズを作ることになりました。

Q. 都市機構にとっての「つくばスタイル」の考え方はどのようなものでしょうか。

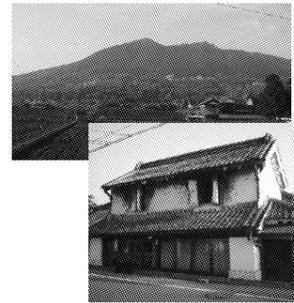
A. 「知的な環境の中で、都市の利便性と豊かな自然、両方の魅力をあわせて楽しむことができる暮らし方」というものです。（つくばスタイル協議会のウェブサイト内にも記述あり）

実際は、つくばの市民の方に浸透してくれれば、「つくばスタイル」という言葉自体はいろいろな使い方をしてよいと思っています。

■調査3：現地見学

この調査を行った理由

これまでの調査を踏まえると、現在のつくばには、「つくばスタイル」として紹介されたことのある地域と紹介されたことのない地域がある。つくば市内の様々な特色のある地域を実際に歩くことで、それぞれがどのようなようすかを調べる。



A 北条・神郡

★古い町並み

過去に栄えていた商店街にはところどころに土蔵造りの歴史的な建築物があり、細長い敷地の形状にも昔の面影を見ることができる。



B 葛城・島名・萱丸

★TX沿線、開発地域

それぞれTX駅周辺。開発が行われ、特に葛城は今後研究学園駅前がつくばの副都心となるため大規模な宅地・商業地の開発が進む。



C 金田

★新旧の混じった街

郊外の市街化調整区域だが、昔からの家々が立ち並び、古民家再生等も行われている。新しい宅地も開発され、戸建、アパートが建つ。



D 今鹿島

★昔ながらの農村

芝畑が広がる農村エリア。畑、住宅地、小さな工場が混じって建つ。



E 吉瀬

★田舎であることを活用する地区

古くからの集落。しかし、古民家再生プロジェクトやキャンプ場なども見られ、新しい魅力をもった集落として確立している。

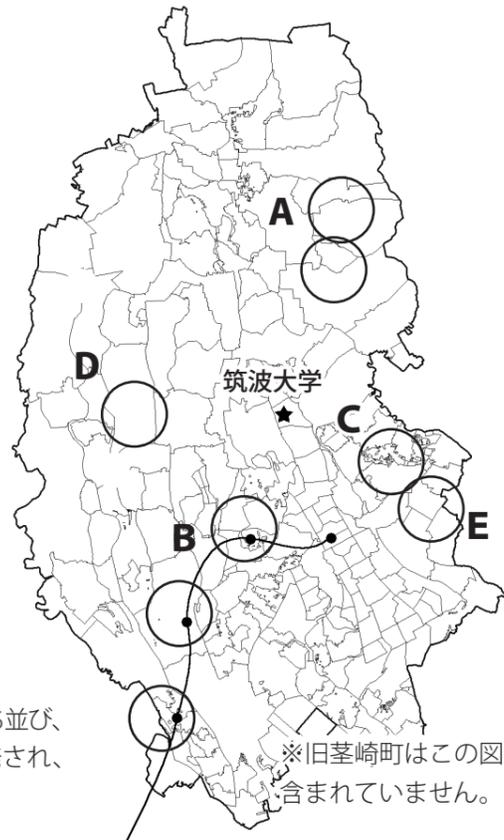
■つくばスタイル協議会

(以下、つくばスタイルのウェブサイトより引用。一部文章改変)

茨城県、つくば市、つくばみらい市、守谷市、都市機構で発足した組織。「つくばスタイル」をブランド化し大きなムーブメントとしていくために活動する。活動内容は以下の通り。

①つくばスタイルに係わる取組み全般の連携・調整を図る。

②協議会として、つくばスタイルを継続的に情報発信していくために、以下の事業を実施する。[つくばスタイルを体感し発信するワークショップ・イベント等の開催、つくばスタイルを実践している団体や個人のサポート、ホームページや情報ステーションを活用した情報発信、その他、協議会の目的に合致し協議会で必要と判断する事業]



■都市つくばのもつ側面

(以下、マイペディアより引用)

□田園都市
菜園や緑地等を十分に持ち、都会と田園の両方の長所を備えるよう計画された都市。既成都市の肥大化防止と人口分散の促進を目的とし、また田園都市自体も膨張を防ぐために規模を限定する。

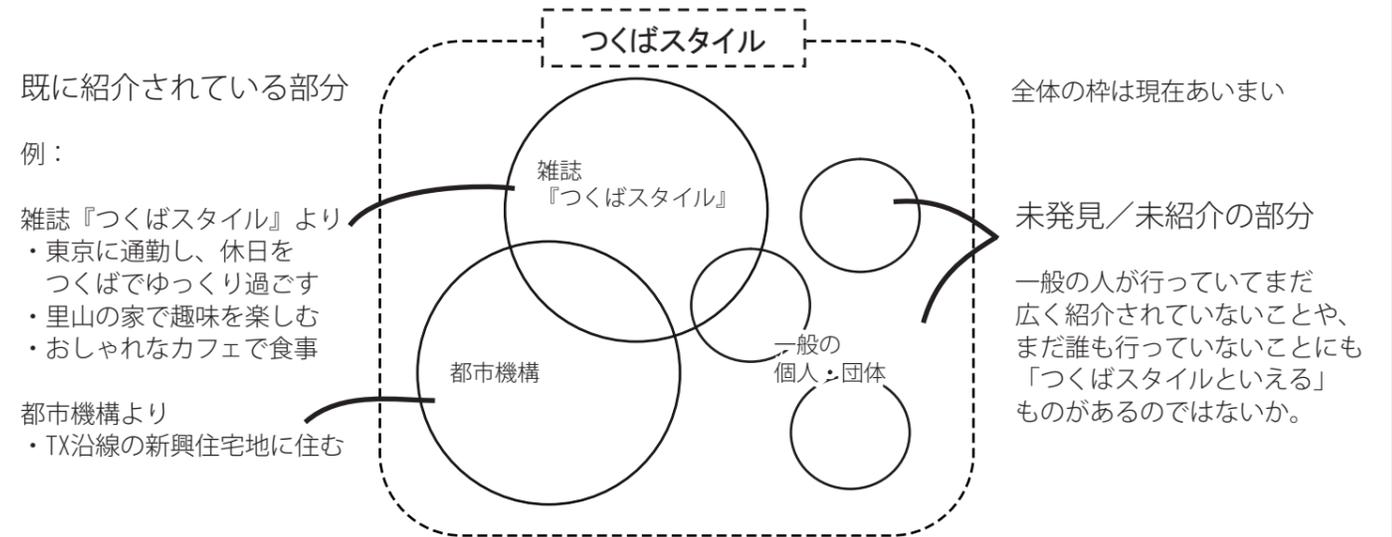
□研究学園都市
大学を初めとした高等教育機関や研究機関が集まる都市。大学の新設や移転と共に付属する研究所が林立し、更に発展して、先端産業の工場が立地する事もある。

■まとめ

3つの調査から、以下のようなことがわかった。

- 1 雑誌『つくばスタイル』の分析
飲食店、農村、子育て等複数のジャンルのトピックスを紹介していた。しかし、内容にいくらか偏りがあることがわかった。
- 2 UR都市機構へのヒアリング
TXの沿線開発にあたってアピールしたいことを「つくばスタイル」ととらえていた。住民に浸透することが重要で、意味がひとつにならなくても良いというスタンスだった。
- 3 まちあるき
様々な地域を歩くことで、地域ごとの異なった特色がみられた。雑誌等で紹介されたものの他にも、つくばスタイルといえる事例が見つかる可能性があった。

以上のことから、つくばスタイルとは以下のような概念図に表すことができるのではないかと考えられる。



このような部分に注目しながら「つくばスタイル」ならではの特徴を理解することで、「つくばスタイル」とは何かを明らかにしたい。

■今後の展望

「つくばスタイル」の全体像を明らかにしようとした場合、まずこの「つくばスタイル」といえる生活をする可能性のある人々にどのような意識や希望があるのかを理解することは必要不可欠といえる。このため、市場調査として一般の方に対して「つくばスタイル」についてのアンケートを行い、どのような需要があるのかを明らかにしていきたい。

■謝辞

担当教員の藤川昌樹先生、TAの村田瑞穂さん、プレゼン準備の際に助言をして下さった研究室の皆様、ヒアリングにご協力いただいた都市機構の大畑洋さんにお礼申し上げます。ありがとうございました。

■参考資料 [ウェブサイト]

つくば市 [http://www.city.tsukuba.ibaraki.jp/]
つくばスタイル [http://www.tsukuba-style.jp/]
Google [http://www.google.co.jp/]
つくば“自然農”スタイルのススメ [http://tsukuba100style.blog40.fc2.com/]
蹴球つくばスタイル [http://www.plus-blog.sportsnavi.com/sportiva_tsukuba/]

■参考資料 [書籍、雑誌等]

つくばスタイルNo.1~6
発行：樫出版社/2004~2008
つくばエクスプレス沿線のまちづくり
~土地利用計画の概要~
茨城県/2008 (改訂)